

# 意見交換会・管内視察報告書（厚生委員会）

提出日： 令和4年10月28日

議員名	真田 光夫
日時	令和4年10月25日（火）
場所	北海道奈井江町
相手先	北海道奈井江町国民健康保険病院
成果・所感等	
<p>(1) 相手先の意見（聞き取り内容）</p> <p>サービス付き高齢者向け住宅について 北海道奈井江町国民健康保険病院</p> <p>奈井江町 人口 4045人 R4.3月、世帯数 2699世帯 1世帯あたり 1.87人、高齢者数 2189人(高齢者率 43.4%) 後期高齢者数 1206人(後期高齢者割合 23.9%) 介護認定者数 397人(介護認定率 18.8%)</p> <p>奈井江町立国民健康保健病院 開設;昭和37年5月、地下1F、地上4階 病床数;50床 診療科目;内科、整形外科、眼科、小児科、外科 常勤医師;3名(内科2名、整形外科1名) 非常勤;内科、眼科、小児科 職員総数;68名(職員41名、会計年度任用職員等27名) 基本理念;地域住民への質の高い医療サービスの提供と健康の保持増進のため、 地域に密着した病院として運営に取り組む 併設施設;保健センター、サービス付高齢者向け住宅「あんしん」 介護老人保健施設「健寿苑」(社会福祉法人運営)</p> <p>経緯</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1、人口の減少と高齢化の進行</li><li>2、地域医療高そうにおける2025年に向けた病院の役割、機能の明確化</li><li>3、地域包括ケアシステムの推進</li><li>4、地方創生による「奈井江版 CCRC(生涯活躍のまち)構想」の推進</li></ol>	

## 病院再編

新設; サービス付高齢者向け住宅 16 室(定員 25 名)

増加; 医療療養病床 20 床→32 床(現在は医療療養病床Ⅱ 50 床)

減少; 一般病床 46 床→18 床

廃止; 介護療養病床; 30 床→0 床

※職員を 80 名ほど退職した(これが最大の難関)

## 入居費等の設定

公立病院内の整備であり、町営住宅と同様に公的賃貸住宅としての役割を持っていることから、低所得者にも配慮した入居費等の設定とした。

地域高齢者の年金受給額を確認したところ、年間 150 万円以下の方が 75%という状況であるため、収入(所得)に応じて 4 段階の設定としている。

## 単身で入居する場合の入居費等

第 1 段階 収入 240 万円を超える

AB タイプ 113000 円 C タイプ 140000 円

第 2 段階 収入 240 万円以下

AB タイプ 98400 円

第 3 段階 収入 180 万円を超え 240 万円以下

AB タイプ 83800 円

第 4 段階 収入 180 万円以下

AB タイプ 70200 円

## 開設費用

総額 1 億 3388 万円

病床機能補助金 3346 万円、介護基盤補助金 1891 万円、地方創生交付金 1950 万円  
一般会計より 6151 万円

## 経営状況

令和元年度-432 万円、令和 2 年度-519 万円、令和 3 年度-580 万円

## 令和 3 年度

収入総額 4050 万円

一般会計負担金 1580 万円、入居費 850 万円、共益金 220 万円

サービス費 304 万円、給食費 348 万円、暖房費 74 万円、

電気料 33 万円、長期前受金 637 万円

一般会計 1580 万円の内訳

事業交付金 246 万円、特別交付金 123 万円、収支不足分 1210 万円

支出(費用)総額 4630 万円

給与費 1153 万円、経費 2259 万円、減価償却費 1217 万円

経費 2259 万円の内訳

高熱水道費 373 万円、燃料費 370 万円、負担金 287 万円、委託料 1071 万円

その他 157 万円

病院事業への収益向上効果

町の住宅施策としての位置付けから、低所得者に配慮した入居費等の設定をしているため、病院事業の収益が向上する効果はなし

サ高住開設前の秋病床が多い状況の病床の収益と比較した場合については、赤字額が圧縮されている。

(2) 意見交換で感じたこと等

サービス付高齢者向け住宅は、元気な高齢者(要支援や要介護の方)にとって、一時的に避難できる重要な施設で、町内、町外を限定せず医療と介護の一時的な地域包括ケアシステムを構築されており、安心して生活ができる施設だと思いました。

また、料金設定も安く設定しており、冬の期間は大変な豪雪地域でもあり、雪かきなどの作業はとても大変で、入居された方も喜んでおられると聞き良い事業だと思いました。

しかし、病院経営はとても大変で、96 床あった病棟を 50 床に減し、新規でサービス付高齢者向け住宅を 16 室設けることは大変なご苦労があったと思われます。リニューアルのための費用と 80 人もの人員削減は、町内で賛否が問われたことでしょう。しかし、その思い切った改革により毎年 1 億 7000 万円もの一般会計からの繰入金は、令和 3 年度には 1 億円をきり 9600 万円の繰入金に減少することができました、今後も経営努力を行い引き続き繰入金を減少させるという思いは十分に伝わってきました。

今は、この事業を立ち上げられた職員などがおられるので経営の改善計画も順調に進むでしょうが、将来的には入居費用を上げることや、施設にネーミングライツ等を行い、企業からの広告収入を受けるなどしないと抜本的な黒字経営にはならないように思いました。